

南永田団地

高齢化が進む団地の賑わいを作る多世代交流拠点づくり



2025年2月

特定非営利活動法人 永田みなみ台ほっとサライ

南永田団地(永田みなみ台)概要①

《地域の特徴》

南永田団地は、横浜南区の小高い丘に自然の地形を生かして建つ1974年完成の中高層集合住宅です。地域内にはスーパー、郵便局、歯科、内科医院などが有り、交通手段も比較的充実しており、また保育園小学校・中学校・公園等などが配置された居住環境です。平成20年代頃(2010年前後頃)から、商店街の空き店舗が目立ちはじめ、住人の高齢化に伴う問題が顕在化して来ている。



1街区:分譲エリア



2街区:賃貸エリア



商店街 広場



団地内プール



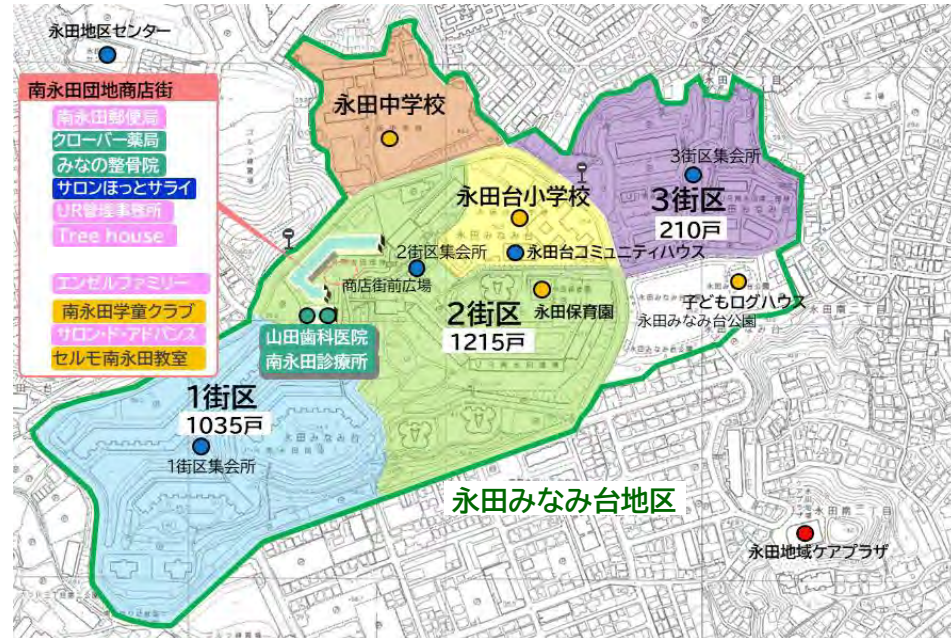
団地へのアクセス

京急線 弘明寺駅よりバス 約10分

南永田団地(永田みなみ台)概要②

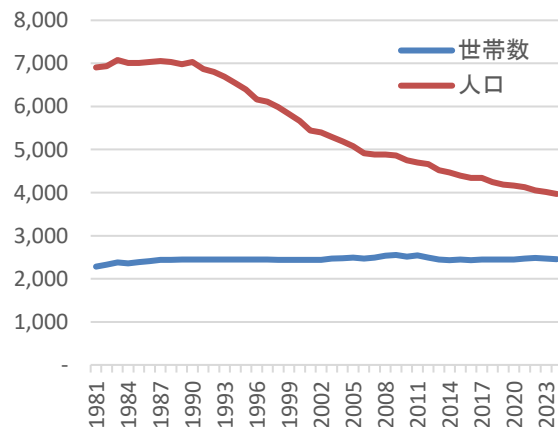
《住宅・人口・高齢化率》(2021年度)

- ・分譲 1,035戸(1街区)
- ・賃貸 1,435戸(2・3街区)
- ・計 2,470戸
- ・人口 4,140人
- ・高齢人口比 46.6%

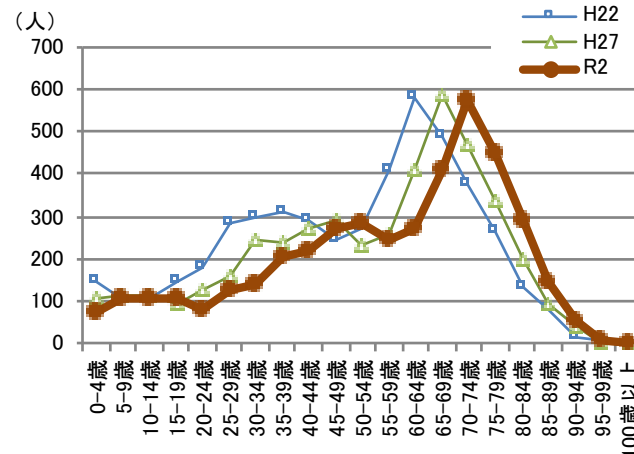


《永田みなみ台地区の人口データ》

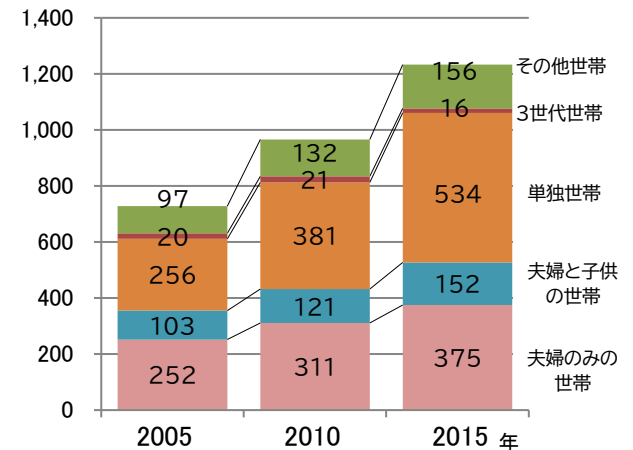
■人口と世帯数の変化



■年齢 5歳階級別人口の変化



■65歳以上がいる世帯の数



取り組みのきっかけ

- ◆永田みなみ台地域では、活動団体同士の定例的な情報交換がされていた
(自治会、地区社協、民生委員、永田商店街、小中学校・PTA、地域ケアプラザ 等)

各団体が連携して何かに取り組むような機会はなかったが、
それぞれが地域に対する同様の不安を持っていた

高齢化が進み、高齢者の一人暮らしが多くなっている！
近隣交流が希薄になっている、孤独死が増えている！
まちが寂しい！ 以前のような活気あるまちにしたい！



みんなで話し合ってみませんか？

地域の活動団体と繋がりがあった
南区役所からの投げかけ



◆地域ぐるみでの取り組みスタート

2015年11月

「寺子屋みなみ」*講座を開催 (南区支援制度)

専門家が、住民での話し合いの進め方や意見のまとめ方を支援

計3回開催、住民の参加者のべ86名 (含む小学生児童)

2016年2月

「永田みなみ台まちづくり運営委員会」の設立 (運営委員会参加人数37名)

※上記の「地域の活動団体」全てが参加 ⇒ 団体間の連携体制を構築



商店が撤退しシャッター商店

※「寺子屋みなみ」：南区が実施する、「協働による地域づくり」を推進し、地域課題の解決や魅力づくりを養うことを目的とした支援講座

地域みんなで目指す取り組みの形

◆ 住民同士の意見交換

- まちの魅力や課題を共有
- どんな資源と可能性があるか、実際に団地を歩いて共有
- 団地の活性化のアイデア出しと可能性を意見交換
- 店舗が空き区画となり、活気がなくなってしまった。
- 住民同士が交流できる場が欲しい。

空き店舗を活用した交流拠点づくり

飲食のできる

- 軽食、ドリンクなど
- 飲食しつろぎの場
- 気軽に一休み出来る所

交流する

- 多世代の交流の場
- 高齢者の憩いの場

多目的に活用する

- 高齢者の見守り拠点
- 子供たちの居場所
- 趣味、サークル活動

寺小屋みなみ



拠点が出来たらこんなことがしたい。
みんなの～未来の絵日記～を描いてみた

＼ まずは、できることから始めてみよう！ ／

交流と活気あるまちおこしに向けた仲間集め

◆2016年4月「つながり祭」を開催。

キャッチフレーズ

《赤ちゃんからお年よりまでみんな集まれつながり祭》

拠点はまだ無いけれど
まずはやってみよう！

◇開催場所 = 団地中央広場 (+UR空き店舗区画)

URを巻き込んで、1日だけ
空き店舗を開放してもらおう

◇開催日時 = 偶数月第2土曜日 午前9時～午後1時まで(小雨決行)

◇催し内容 = 小学生児童と地域住民による通学路のごみ拾い清掃

バザー、物作り、綿菓子、うどん、くじ引き、昔遊びなど

ダンスや演奏会(小学校の先生、児童・地域住民各サークル)

◇参加協力 = NPO 法人永田みなみ台ほっとサライ

永田台小学校、小学校放課後キッズ、学童クラブ

小学校PTA、おやじ&フェス部

UR 都市機構、永田商店街

保育園、

障害者地域活動センターめざみ・ぽれぽれ・ドリーム弘明寺

やっぱり
常設の場所が欲しいね！

◇参加者数 = 大人、約100名、小中学生児童、約150名



「つながり祭」ドリーム体操

「つながり祭」は 2016年以降、隔月で現在も開催中！

多世代交流拠点サロンほっとサライができるまで

取組み内容

仲間集め活動

活用制度

- 2015年
 - ・「寺子屋みなみ」実施(3回開催)
⇒ワークショップの開催や他団地を視察
 - ・「永田みなみ台まちづくり運営委員会」を結成
- 2016年
 - ・拠点づくりに向けた検討がスタート
 - ・団地の賑わいと仲間づくりを目的に、「つながり祭」を初めて開催
- 2017年
 - ・補助事業の活用、拠点の賃貸契約等も見据え、NPO法人設立に向けた準備を開始。
 - ・2018年1月にNPO法人 ほっとサライ設立。
 - ・介護予防交流拠点整備事業補助金申請。
- 2018年
 - ・介護予防交流拠点整備事業補助金を活用し、拠点整備を実施。
- 2019年
 - ・サロンほっとサライを4月オープン。

まちづくり検討の
仲間・協力者集め

つながり祭りへの
参加者集め

NPO法人への
参加者集め

敷金・活動資金の
寄付金集め

サロンボランティア
仲間集め



南区支援事業
「寺子屋みなみ」
【専門家派遣】

建築局支援事業
マンション・団地
コーディネート支援事業
【専門家派遣】
(年5回×3年間)

健康福祉局支援事業
介護予防交流
拠点整備事業
【整備補助金】

サロンほっとサライ オープン

◆ 2019年4月 オープン

- ・団地内のUR空き店舗を賃借し、多世代交流拠点として運営
- ・コミュニティカフェとして営業しつつ、住民の交流・活動の拠点の場としても活用
- ・「NPO法人 永田みなみ台ほっとサライ」が運営
- ・横浜市 介護予防交流拠点整備事業補助金 及び 住民の寄付金により立上げ



ボランティアの皆さん

《営業内容》

- ◆ 営業時間 11:00～15:00まで（日曜・祝日は休み）
- ◆ 飲食類 飲み物（コーヒー・紅茶・ジュース類）
食事類（火・木・金曜日）その他の曜日はトースト
- ◆ 来客者数 年間 7,669名（営業261日、一日平均29名ほど）
- ◆ ボランティア スタッフ 25名 ※無報酬 ※ 2023年度 実績



カフェ営業中の風景

《その他の取り組み》

- ◆ 百人一首の集い（月1回）
- ◆ 子どもの居場所・SUN^{サン}SUN^{サン}（月1回）
- ◆ 映画お楽しみ会（月2回）
- ◆ 民生委員の住民相談窓口（週2回火・金）
- ◆ 国際交流イベント（年1回）
- ◆ カラオケ（月2回）
- ◆ クッキーなどの販売（障害者支援センター製造）
- ◆ 小学生児童や住民の作品展示
- ◆ そば打ち体験教室（年数回） など
- ◆ レンタルボックス



レンタルボックスコーナー

地域のつながりについて

NPO法人 永田みなみ台ほっとサライ

地域の活動団体・有志を構成員とする会員組織（会費制）

👁️ コミュニティのつながりとしての拠点

《主な活動》

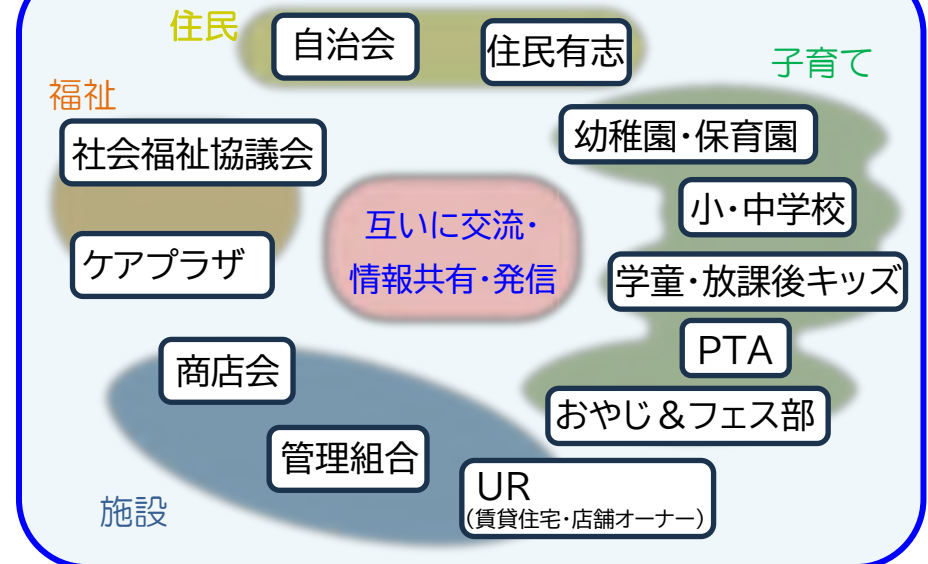
- 交流拠点「サロン ほっとサライ」を運営
- 団体同士のつながり・連携の促進、イベント企画
→隔月で多世代交流「つながり祭」を開催
- 隔月に1回 全体会を行い、地域の情報を共有
- 地域の交流・情報共有・発信の場として
高齢者の見守り拠点として機能

それぞれにとっての居場所、やりがいの場、楽しみ場、情報の集まる場
(どれに当てはまっても良い、つながりのきっかけの場)

◆各団体の活動

- 自治会: 夏祭り、防災訓練、異世代交流
防犯パトロール、餅つき、
団地内ウォークラリー
- 社 協: 高齢者サポート、認知症サポーター
子育てサロン、高齢者サロン
- 商店街: サロンほっとサライとの連携
つながり祭への協力、開催情報発信

NPO法人 永田みなみ台ほっとサライ

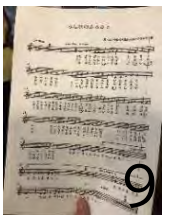


それぞれは個別に活動しつつも、つながっている関係

- 学校・地域コーディネーター+見守り隊:
通学時見守り、課外活動支援、
高齢者趣味活動支援



- 小学校: カフェの体験学習授業、廃棄食材のコンポスト
サロンへの七夕飾り、「ほっとサライの歌」製作
団地マラソン企画、ドリーム体操



- 中学校: 美術部による店舗ガラス面への絵画アート

これまでの取り組みの振り返り

◆これまでやってきた振り返り、協力者への感謝

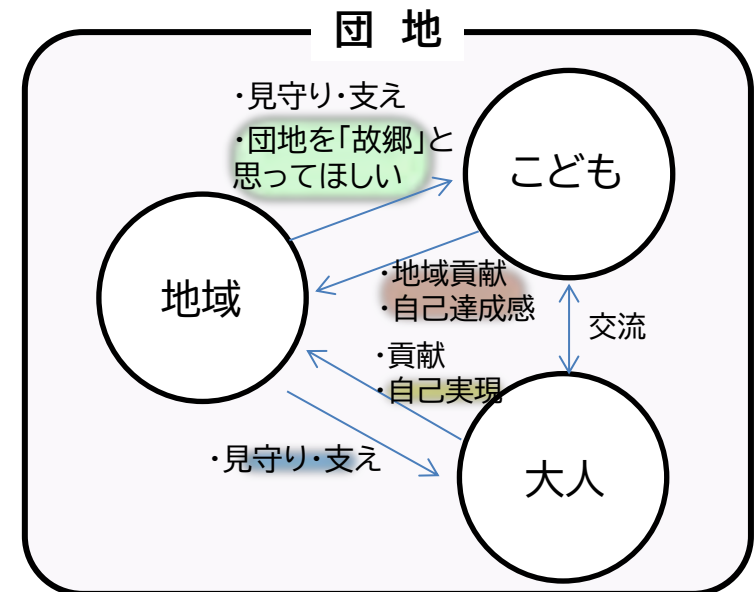
- ・住民が漠然と感じていた想いを皆で共有できた
- ・活動を引っ張り、判断する人が必要
- ・みんながついてきてくれた→ それぞれができることで協力
- ・ボランティアの方他、協力者への感謝

◆運営が継続できているポイント

- ・とにかく「楽しんでやってほしい」が第一
- ・サロンは、皆が集まり活動ができる場となっている
- ・NPO法人が、つながり・情報交換・相談できる場
- ・地域に貢献している、役に立っているかとも思える自己肯定感があると良い

◆取組みへの想い

- ・住民が活躍できる場をつくっていきたい
- ・子どもも大人も孤立しないよう地域で支えていきたい
- ・子ども達には、団地を「故郷」と思ってもらいたい



地域の活動が、地域貢献と共に、住民や子供たちの自己実現の機会となっている。

これからの展望

◆地域住民のニーズに応じた「サロンほっとサライ」の企画と経営維持

誰もが気楽に立ち寄れる出会い、交流、憩いの場づくり。

高齢者の見守り拠点づくり。

現ボランティア皆さんの協力と若手担い手の参加促進。



サロンほっとサライ ボランティアの皆さん

◆「つながり祭」の活動促進

地域住民のつながり、交流の場として小、中学校及び各団体の参加を得ながら、まちの活性化を図って行く。



永田中 美術部：絵画アート



永田台小6年1組企画：団地マラソン

◆各団体との協力と連携

自治会、南永田団地商栄会、UR 都市機構、地域社会福祉協議会

永田地域ケアプラザ、小学校・中学校教職員、永田保育園

小学校放課後キッズクラブ、永田学童クラブ、介護施設ミモザ

障害者支援センター など



見守り隊：相談対応



趣味の集い：百人一首の会



2018年



現在